

「カルチャーパーク再編整備」構想



平成 22 年 (2010 年) 6 月
秦 野 市

はじめに



「カルチャーパーク」は、「中央運動公園」を中心に、「みずなし川緑地」等と一体となった空間であり、文字どおり、本市の文化・スポーツ・レクリエーションの拠点として、昭和47年の野球場完成により開園しました。

以来、40年近い歴史の中で、陸上競技場をはじめとする各運動施設はもとより、中央こども公園、文化会館、図書館などの施設整備に続き、平成8年に、神奈川ゆめ国体の競技施設となった総合体育館が完成しました。

平成元年には、中央運動公園が「日本の都市公園100選」に選定されるとともに、隣接する「みずなし川緑地」は、「手づくり郷土賞」を受賞するなど、本市のシンボリックな公園となっています。

特に、春には桜の名所として賑わうほか、夏の水無川のせせらぎ、秋の紅葉、そして冬には雪化粧の丹沢の山々を背景とした景観を楽しむことができるなど、四季を通じて豊かな自然と調和した空間は、私たち市民の憩い場として、また、「市民の日」をはじめとする各種イベント会場など、多くの人々が集うコミュニケーションの場としての機能も有しており、広く市民から愛されているところです。

しかし、開園から長い年月が経過するとともに、市民の多様なニーズによる公園区域の拡張整備を重ねてきたことなどから、各施設間の動線も良好とはいえない状況となっています。

こうした中、秦野市総合計画第三期基本計画に、将来を見据えたまちづくりの「重点プロジェクト」の一つとして「カルチャーパーク再編整備構想」を掲げ、多くの皆さまのご意見をもとに、ここに本構想を策定いたしました。

この構想では、「カルチャーパーク」を、市民誰もが「元気・健やか・いきいき」を実感できる場として、一年を通し、花や潤いの体感できる環境のなかで、利用しやすい親しみのある緑に囲まれたスポーツと文化の情報発信地として位置づけ、『ひと・水・花 いきいき発信』を基本コンセプトに定めて、より魅力ある空間づくりを目指してまいります。

今後は、構想に掲げました、長期・短期での具体的な整備目標に基づき再編整備に取り組んでまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成22年 6月

秦野市長 古谷 義幸

目 次

1 「カルチャーパーク再編整備」構想について

- (1) 構想の目的 1
- (2) 構想の位置付け 1
- (3) 経緯と現状 3
- (4) 課題の整理と対策の方向性 5
- (5) 基本構想の策定 6

2 短期計画の基本方針

- (1) 再整備に向けた基本的考え方 9
- (2) 現状の確認と課題の整理 10
- (3) ゾーニング及び動線の考え方 13
- (4) 修景施設の再構築 14
- (5) 再整備の具体的内容 20